

医療安全対策室の活動結果

宮守美穂

【はじめに】当院は脊椎内視鏡手術に特化した60床で、手術件数は年間1400件である。また平均在院日数は9日であり、安全管理の役割期待は大きい。平成22年の診療報酬改定で医療安全対策加算2を取得し、医療安全対策室を設置した。対策室メンバーは8名が兼任し、警鐘事例の分析・患者アンケートの分析と対応・現場の提案事項などの検討を毎週1回行っている。また、検討内容は対策室便りとして全職員に配信し、情報共有に努めている。そこで今回、全職員が対策室の活動について、どのようにとらえているかを知りたいと考えアンケート調査を行った。その結果から職員の理解状況と課題について報告する。

【方法】平成25年10月10～20日、全職員（152名）対象にアンケート調査、回収率93%

【結果】下記は全体の結果であるが、部門別では、設問1・2・5では共通していたが、設問3・4では結果に差異があった。

- 1.対策室を知っている（97%）
- 2.対策室の業務を知っている（92%）
- 3.対策室は医療安全に役立っている（76%）
- 4.対策室は現場改善に役立っている（71%）
- 5.対策室便りを知っている（95%）

【考察】院内LANシステムはごく一部の職員を残し、全員がみる環境にある。また対策室便りは毎週配信しているため、配信のたびにみると答える職員がほとんどであった。そのため対策室の活動は、ほとんどの職員に周知されていた。次に対策室の活動評価は、取り扱う課題の軽重によるものと考えられた。

【結論】1.対策室便りは職員にとって、病院組織の動きを知る機会となっている。

2.全職員が対策室便りを通し、組織改善に参加できる仕組みが課題